

こほどいせき

小保戸遺跡

(相模原市城山町No.51遺跡)

調査期間 20070201～継続中

所在地 相模原市城山町小倉
地先

時代 旧石器
縄文
古代
中・近世



作成日:20080825

概要

本遺跡の調査は、一般国道468号線(さがみ縦貫道路)建設事業に伴う相模原市城山町小倉の埋蔵文化財発掘調査として平成19年2月から実施しています。遺跡は相模川の上流部、串川との合流地点付近右岸の河岸段丘上に位置し、現地表面の標高は約132m前後を測ります。本遺跡西側の一段高位の段丘面上には大保戸遺跡、串川を挟んだ対岸には津久井城跡が位置しています(写真1)。

調査予定面積は全体で約14,000㎡を測り、発掘調査はこの範囲を南北に分割して実施しています。また、後期旧石器時代後半～縄文時代前半頃までは、本遺跡中には埋没谷(まいぼつだに)が存在していたことも明らかになりました。現在調査を行っている旧石器時代の遺物はL1H層およびB1層の上・中～下部から複数の集中地点に分かれて出土しています(写真2)。

また、昨年度分の調査になりますが、南区からは上記の埋没谷の底面付近を中心に計300基を超える落とし穴が発見されています(写真3)。



▲写真1 小保戸遺跡遠景



▲写真2 石器出土状況(旧石器時代)



▲写真3 落とし穴検出状況